

## 会長の挨拶 23 職業の本質—その 10—

このような考え方から明らかに成るように、ロータリーがその職業に対して固定的な基準を押し付けるべきではなくして、どのようにしたら生きた社会の躍動する頭脳をロータリーがクラブ内に吸収でき、そしてその頭脳も、ロータリーの影響によって、より高次の刺激を受け、社会全体に影響を与えうるか、という立場から、職業及び職業分類の問題を考えることが望ましい。これを別の形で表現すれば、バーの経営者ではダメだとか土方ではダメだという考え方ではなく、当該社会の管理者的立場を全部職業分類の立場から名称を賦与し、その際一切の価値判断—高利貸・売春宿経営者等反社会的職種を除く—を具体的職業に加えるべきでないという点を特に強調しておかなければならない。

最後に、ロータリーは職業と専門職業という伝統的二分法の上に立ちながら、その両者の融合を通じて、本来人生に対する貢献度から言って、職業は一つたるべき自覚を醸成することをその重要な目的の一つとしていることを指摘しておかなければならない。

(小堀憲助著 『ロータリー思想の理論構造』より引用)